



奈良県感染症情報

令和6年 第37週(9月9日～9月15日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健健康センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

手足口病
監視観測中!

今週の概要
・9月24日から30日は「結核・呼吸器感染症予防週間」です

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		
		定点当たり	(前週)	増減
1	手足口病	6.18	(5.82)	↗
2	新型コロナウイルス感染症	4.65	(5.62)	↘
3	感染性胃腸炎	2.82	(3.18)	↘
4	A群溶連菌咽頭炎	1.47	(1.03)	↗
5	RSウイルス感染症	0.35	(0.62)	↘

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少数 (疾患毎に、基準値を定めています。)

※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、↘やや減少、↓↓減少

◆県内概況◆

手足口病の定点当たり報告数は6.18で、前週と比べ増加しています。第35週(8月26日～9月1日)からの週連続で警戒開始基準値の「5」を超えており、注意が必要です。流水と石けんでしっかりと手を洗い、タオルの共用は避ける等の感染対策を引き続きお願いいたします。特に、保育園施設などの乳幼児の集団生活では、感染をを広げないために、職員と子ども達がしっかりと手を洗いをすることが大切です。この機会に、正しい手洗い方法を再確認し、こまめに手を洗う習慣をつけましょう。

A群溶連菌咽頭炎の定点当たり報告数は1.47です。奈良県北部地域においては、過去5週間平均数と比べて急増しています。患者との濃厚接触を避け、うがいや手洗いを心がけましょう。

◆9月24日から30日は「結核・呼吸器感染症予防週間」です◆

～結核はまだ身近な病気です(結核予防週間標語)～

結核は、全国で年間10,000人以上の新しい患者が報告され、1,500人以上が命を落としている重大な感染症です。日本は新規登録患者のおよそ7割が60歳以上の高齢者であり、また20歳から30歳代は外国生まれの患者の割合が高くなっています。

厚生労働省では、9月24日から30日を「結核・呼吸器感染症予防週間」として、結核及び呼吸器感染症に関する知識の普及と啓蒙を行っています。今一度、この機会に結核に対する理解を深めましょう。

<結核の概要>

結核は、結核菌によって引き起こされる感染症です。患者の咳やくしゃみにより、飛沫に含まれる結核菌が空気中に飛び散り、それを周りの人が吸い込むことで感染します。感染しても、多くは身体の免疫の働きにより抑えられ発病しません。ただし、加齢や病気で免疫力が落ちると、抑え込まれていた結核菌が再び活動を始めることがあります。初期の症状は風邪と似ていますが、咳、痰、発熱などの症状が長く続くのが特徴で、肺以外の臓器(腎臓、リンパ節、骨、脳など)に影響が及ぶこともあります。特に、乳幼児では抵抗力が弱く、感染すると重症化しやすいため注意が必要です。咳や痰が2週間以上続いたり、微熱や体のだるさが続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

<予防対策>

- ・健康的な生活が免疫力を高めます。結核の予防につながります。適度な運動や十分な睡眠、栄養バランスの良い食事など、免疫力が低下しないように規則正しい生活を心がけましょう。
- ・早期発見による重症化の予防や周囲への感染予防のためにも、定期的な健康診断を受けましょう。
- ・乳幼児の結核予防にはBCGワクチンが有効です。定期接種期間(1歳未満)にワクチンを接種しましょう。

※厚生労働省HP「手足口病」について(国語版)のためURLはhttps://www.mhlw.go.jp/content/1000000010129019.pdf



奈良県感染症情報

令和6年 第38週(9月16日～9月22日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健健康センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

手足口病
監視観測中!

今週の概要
・小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		
		定点当たり	(前週)	増減
1	手足口病	5.26	(6.18)	↘
2	新型コロナウイルス感染症	4.38	(4.65)	↘
3	感染性胃腸炎	2.41	(2.82)	↘
4	A群溶連菌咽頭炎	1.26	(1.47)	↘
5	RSウイルス感染症	0.41	(0.35)	↗

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少数 (疾患毎に、基準値を定めています。)

※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、↘やや減少、↓↓減少

◆県内概況◆

手足口病の定点当たり報告数は5.26で、依然として高い水準で推移しています。年齢別報告数では1～5歳の報告数が多くなっており、保育園施設等の乳幼児の集団生活の場では特に注意が必要です。流水と石けんでしっかりと手を洗い、タオルの共用は避ける等の感染対策の徹底をお願いいたします。

A群溶連菌咽頭炎の定点当たり報告数は1.26です。通常、患者との接触を介して伝播します。人との接触機会が増加するときに起こりやすく、学校などの集団での感染も多いため注意しましょう。感染対策には、うがいや手洗いを心がけましょう。

マイコプラズマ肺炎の基準定点当たり報告数は1.00です。例年、秋冬に増加する傾向があり、一部小児科からも流行特徴の情報提供もあるため、引き続き注意が必要です。感染予防としては普段からの手洗いやマスクの着用や咳エチケットを心がけましょう。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

保育園での手足口病は減少傾向にあるものの続いている。

中部地区(岡本内科子どもクリニック)

COVID-19 陽性例は減少、特に小児はかくなり減少した。手足口病の流行が横ばい状況で持続。重症例はない。マイコプラズマ様の咳嗽例が多い。ヘルパンギーナ、アデノなどの夏風邪は減少してきた。感染性腸炎も持続して見られる。短期、軽症経過。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

手足口病は減少してきた。RSウイルス感染症は散見されるのみ。マイコプラズマ感染症の流行は続いている。一部マクロライド系抗生剤が不応の例もみられる。胃腸炎は増加している。COVID-19 は散見されるも大きな波にはなっていない。





奈良県感染症情報

令和6年 第39週(9月23日～9月29日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- ・インフルエンザ、新型コロナウイルスの定期接種について
- ・病原体(ウイルス)検出情報(9月)

手足口病
重症化待機中!

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減			
1	手足口病	5.15	(5.26)	→	→	↗
2	感染性胃腸炎	2.44	(2.41)	→	→	↘
3	新型コロナウイルス感染症	2.44	(4.38)	↘	↘	→
4	A群溶連菌咽頭炎	1.56	(1.26)	↗	↗	↗
5	RSウイルス感染症	0.41	(0.41)	→	→	→

発生状況: 大流行 流行 やや流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 ※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆県内概況◆

第39週の手足口病の定点当たり報告数は5.15で、依然として高い水準で推移しています。手足口病の原因となるウイルスは複数の種類があるため、一度手足口病になっても繰り返しかかる可能性があります。治った後も比較的長い間便の中にウイルスが排泄される上、感染しても発病しないままウイルスを排泄している場合もあるため、日頃からしっかりと手洗いが大切です。

インフルエンザ入院基準定点サマーペーパランスで、奈良市保健所管内から2件、郡山市保健所管内から1件の入院患者報告がありました。インフルエンザは、例年、12月～4月が流行時期になっていますが、一度流行が始まると短時間で多くの人へ感染が広がります。予防接種をご希望の方、特に定期接種の対象となる方は、早めにかかりつけ医等に問い合わせていただき、必要性や副反応について十分に理解した上で接種を検討するようにしましょう。

◆インフルエンザワクチン・新型コロナウイルスの定期接種について◆

令和6年10月から、65歳以上の高齢者の方などの重症化リスクの高い方を対象に、インフルエンザワクチン・新型コロナウイルスの定期接種が開始されます。接種可能な医療機関や地域での取り組みについては、お住まいの市町村にお問い合わせください。

◆病原体(ウイルス)検出情報(令和6年9月)◆

検出病原体	*ウイルス分離判定日での集計結果			臨床診断名
	北部	中部	南部	
アデノ	14型 1			発疹症、肺炎(1)
コクサッキーA群	16型 1	8		手足口病(7) 手足口病、発疹症(1) ヘルパンギーナ(1)
RS	1	1		RSウイルス感染症(2)
ヒトメタニューモ	4	2		ヒトメタニューモウイルス(6)



奈良県感染症情報

令和6年 第40週(9月30日～10月6日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- ・小児科外来情報

手足口病
重症化待機中!

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減			
1	手足口病	5.88	(5.15)	↗	↘	↗
2	感染性胃腸炎	3.21	(2.44)	↗	→	↗
3	新型コロナウイルス感染症	2.82	(2.44)	↘	↘	↘
4	A群溶連菌咽頭炎	1.97	(1.56)	↗	↗	↗
5	インフルエンザ	0.82	(0.40)	↗	↗	↘

発生状況: 大流行 流行 やや流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 ※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆県内概況◆

第40週の手足口病の定点当たり報告数は5.88で、前週の5.15より増加しています。手足口病は、感染者の咳のしぶきを吸い込むことによる「飛沫感染」、感染者と直接の接触や病原体のついた手すりやドアノブ等を介した接触による「接触感染」、便と一緒に排泄された病原体が手指などを介して口に入る「糞口感染」等により広がります。症状が無くなった後も、2～4週間はウイルスを排泄し続けることがあるため、注意が必要です。予防のため、日頃から流水と石けんによる手洗いを心がけ、タオルの共用は避けましょう。

マイコプラズマ肺炎の基幹定点当たり報告数は2.33で、前週の1.83より増加しています。マイコプラズマ肺炎は「肺炎マヤマヤ」といって細菌による呼吸器感染症で、主な感染経路は飛沫感染と接触感染です。予防には、普段から流水と石けんによる手洗いを適切に行うことが大切です。また、咳がでるときはマスクを着用するなど、咳エチケットを心がけましょう。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

手足口病の流行は少ない。感染性胃腸炎と溶連菌感染症は少数。
 COVID-19 はほぼ見られぬ。

アデノウイルス咽頭炎と水痘はそれぞれ1例あった。
 マイコプラズマ感染症は学童のみでなく、各年齢層で多く見られる。広く流行している。

中部地区(岡本内科)とモクニツク

COVID-19 陽性は15歳前後の年長児でごく僅かに見られたが幼児小児では見られなかった。
 手足口病の流行が持続。

感染性肺炎の流行も持続。嘔吐・下痢を伴った。母なども発症例あり。
 ロタ陰性、1例で便アデノ陽性。

他症で経過観察のRS様・喘鳴強度の10か月乳児が紹介された。
 マイコプラズマ肺炎の例は減少した。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

COVID-19 は散見されるも増加のきざしはない。
 手足口病は若干減少してきたが流行は続いている。

マイコプラズマ肺炎の流行は続いている。
 下痢中心の胃腸炎が増加している。アデノウイルス陽性例もあるも、ほとんど迅速検査では陰性であった。



奈良県感染症情報

令和6年 第41週(10月7日～10月13日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

手足口病 警報発令中!
インフルエンザの流行が始まっています

今週の概要

- マイコプラズマ肺炎について
- 9月報(月単位)報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	手足口病	7.21	(5.88) ↑	↑	↑	→
2	感染性胃腸炎	2.79	(3.21) ↓	→	→	→
3	新型コロナウイルス感染症	1.82	(2.82) ↓	↓	↓	↓
4	A群溶連菌咽頭炎	1.21	(1.97) ↓	↓	→	↑
5	インフルエンザ	1.04	(0.82) ↑	↓	↑	↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 ※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

第41週の手足口病の定点当たり報告数は7.21で、前週の5.88よりも増加しています。インフルエンザの定点当たり報告数は1.04で、流行期入りの目安となる1.00を上回っており、増加傾向がみられます。インフルエンザの予防接種には、発症のある程度抑える効果や、重症化を防止する効果が報告されています。特に高齢の方や基礎疾患のある方など、重症化リスクの高い方は予防接種をご検討ください。マイコプラズマ肺炎の基礎定点当たり報告数は3.33で、前週の2.33より増加しています。マイコプラズマ肺炎の主な感染経路は飛沫感染と接触感染と言われています。予防のため、普段から流水と石けんで適切に手を洗い、せきやくしゃみが出るときは咳エチケットを心がけるようにします。

◆マイコプラズマ肺炎について◆

マイコプラズマ肺炎は、「肺炎マイコプラズマ(*Mycoplasma pneumoniae*)」という細菌に感染することによって起こる呼吸器感染症で、小児や若い人の肺炎の原因として、比較的多いものの一つです。マイコプラズマ肺炎は、3～7年程度の周期で大きな流行がみられていましたが、奈良県では平成28年の流行を最後に患者報告数は減少し、近年は報告がほぼみられませんでした。しかし、令和6年になり、再び報告数の増加がみられています。

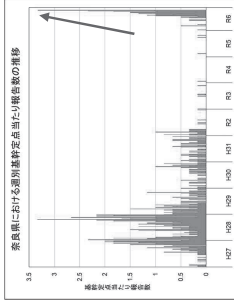
肺炎マイコプラズマに感染した人の多くは軽症のまま治りますが、肺炎になったり、重症化したこともあります。咳が長引くなどの症状があるときは、医療機関で診察を受けるようにします。

マイコプラズマ肺炎の主な症状

- 発熱
 - 全身の倦怠感(だるさ)
 - 頭痛
 - 長引く咳
- (咳が下がったあと、3～4週間続くことが特徴です。少し遅れて始まることもあります。)

詳しくは「マイコプラズマ肺炎」(厚生労働省 HP)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekaku/kekaku-kansenshou19/mycoplasma.html



(健康課「マイコプラズマ肺炎」の発生状況)



奈良県感染症情報

令和6年 第42週(10月14日～10月20日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

手足口病 警報発令中!
インフルエンザの流行が始まっています

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	手足口病	5.38	(7.21) →	→	→	→
2	感染性胃腸炎	2.71	(2.79) →	→	→	→
3	新型コロナウイルス感染症	1.42	(1.82) ↓	→	→	→
4	A群溶連菌咽頭炎	1.21	(1.21) →	→	→	→
5	インフルエンザ	0.73	(1.04) ↓	↑	→	↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 ※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

第42週の手足口病の定点当たり報告数は5.38で、手足口病警報発令中です。手足口病の原因となるウイルスには複数の種類があります。そのため、一度感染して免疫ができていても、別の種類のウイルスに感染し、再び手足口病にかかることがあります。奈良県ではコクサッキーウイルスA群16型が多く検出されていますが、近隣府県ではコクサッキーウイルスA群6型の検出も報告されています。予防のため、流水とせっけんできれいに手を洗うようにし、タオルの共用は避けましょう。

マイコプラズマ肺炎の基礎定点当たり報告数は2.67で、例年の同時期に比べて高い水準で推移しています。例年、14歳以下の患者報告が多い疾患ですが、成人の患者の報告も見られます。感染拡大防止のため、普段からしっかりと手を洗い、咳が出るときには「咳エチケット」を守るようにしましょう。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

手足口病の流行は続いている。

マイコプラズマ肺炎は減少したが、咳のみの例を含めると流行は続いている。溶連菌感染症は落ちている。

中部地区(南本内科こどもクリニック)

手足口病の流行は持続、やや増加傾向。症状は無熱、軽症が多い。

インフルエンザは見られなくなっているが、咳のみの例は聞かれない。

COVID-19例はごく稀にみられただけでゼロではない。

咳が遷延する例が多く、抗生剤の効果が見られない例が多い。

その他感染性腸炎も持続。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

手足口病の流行は落ち着いてきた。胃腸炎は増加してきている。一部学校で流行したインフルエンザは、現在では流行拡大していない。COVID-19、RSウイルスも散見のみ。マイコプラズマによる肺炎は多い。また遷延する呼吸器疾患ではトライウイルス気管支炎が多数みられた。

奈良県感染症情報

令和6年 第47週(11月18日～11月24日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

インフルエンザの流行が始まっています

今週の概要

- 12月1日は世界エイズデー

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	4.03	(3.85) →	↗	→	↗
2	手足口病	1.61	(2.62) ↓	↓	↓	↘
3	インフルエンザ	1.28	(1.56) ↗	↗	→	↗
4	A群溶連菌咽頭炎	1.21	(2.21) →	↘	→	↘
5	新型コロナウイルス感染症	0.98	(1.58) ↘	↘	↘	↘

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)

※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。

増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓↓減少

◆県内概況◆

第47週のインフルエンザの定点当たり報告数は1.28で、流行が始まっています。インフルエンザは、インフルエンザウイルスが体内に入り込むことよって起こり、感染経路は飛沫感染と接触感染の2つがあります。ウイルスの体内侵入を防ぐため帰宅時や調理の前、食事の前などはこまめに手を洗い、咳エチケットなども心がけましょう。また、インフルエンザウイルスにはアルコール製剤による手指衛生も効果があります。

マイコプラズマ肺炎の基準値あたり報告数は5.17と前週の4.33より増加し、過去10年で最大の報告数となっています。マイコプラズマ肺炎は発熱や全身の倦怠感(だるさ)、咳などの症状がみられ、咳は熱が下がった後も長期にわたって(3～4週間)続くのが特徴です。感染拡大防止のため普段から流水と石けんによる手洗いを行い、咳の症状がある場合にはマスクを着用するなど「咳エチケット」を守ることを心がけましょう。

◆12月1日は世界エイズデー◆

U=U 知ることから、もう一度。12月1日は世界エイズデー。*

エイズ(AIDS/後天性免疫不全症候群)とは、HIV(ヒト免疫不全ウイルス)というウイルスに感染することにより、免疫力が極端に低下する病気です。潜伏期間が約10年あり、感染していても自分がHIVに感染していることに気づかない患者が多数いると推定されています。

U=U(Undetectable=Untransmittable)とは、効果的な抗HIV治療を受けて血液中のHIV量が検出限界値未満(Undetectable)のレベルに最低6ヶ月以上継続的に抑えられているHIV感染者からは、性行為によって他の人にHIVが感染することがない(Untransmittable)、ということを表すメッセージです。

近年は治療法の進歩によりHIVに感染しても早期把握、治療の早期開始・継続によりエイズの発症を防ぐことができるようになりました。

奈良県では、県内各保健所にてHIV検査や健康相談などを行っています。検査は匿名でも受けることができますので、ご自身やパートナーのためにも検査を受検しましょう。

(参考)厚生労働省 HP:https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/000183582_00015.html
エイズ予防情報ネット (AIP-Net):https://npi-net.fbp.or.jp/education/aids/campaign2024.html



奈良県感染症情報

令和6年 第48週(11月25日～12月1日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

インフルエンザの流行が始まっています

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	4.39	(4.03) ↗	→	→	↗
2	インフルエンザ	2.72	(1.28) ↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
3	新型コロナウイルス感染症	1.89	(0.98) ↗	→	↗	↑↑
4	手足口病	1.70	(1.61) ↓	↓	↓	↑↑
5	A群溶連菌咽頭炎	1.45	(1.21) →	→	→	→

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)

※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。

増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓↓減少

◆県内概況◆

第48週のインフルエンザの定点当たり報告数は2.72で前週の1.28より増加しています。流行期入りの目安である「1」を継続的に超過しており、特に奈良県北部地域及び中部地域においては過去5週間平均数と比べて急増していますので、今後の感染拡大に注意が必要です。

また、新型コロナウイルス感染症の定点あたり報告数も1.89で前週の0.98より増加しています。どちらの感染症も感染予防、対策としては、「手洗い」「マスク」の着用を含む咳エチケットなどが有効です。「咳エチケット」とは、他の人に感染させないために、個人が咳・くしゃみをする際、手のひらではなくマスクやティッシュ・ハンカチ、袖を使って、口や鼻をおさえることです。通院や大人数で集まったりするときは、マスクの着用を含めた感染対策をお願いします。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

インフルエンザとCOVID-19の診断例は無かった。手足口病と溶連菌感染症は減少した。前記2疾患よりはるかに多いが、マイコプラズマ感染症も若干の減少が見られる。各種迅速検査キット陰性の気管支炎が見受けられる。症例の軽微な感染性胃腸炎がやや増えている。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

COVID-19陽性例はまだ稀であるが見られる。インフルエンザA型は増加傾向であるが急増は見られない。軽症。咳嗽、熱の例が続く。マイコプラズマ、hMP肺炎、RS例があった。感染性肺炎も流行、短期の嘔吐、水様下痢で明らか原因特定には至っていない。手足口病も持続しているが一時より発疹少なく軽症傾向。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

A型インフルエンザが増加している。B型はみられない。COVID-19は散見されるのみで増加傾向はない。マイコプラズマ感染症の流行は続いている。一部マクロライド不応例もみられる。肺炎球菌性肺炎が増加している。遷延する呼吸器感染症ではライノウイルスが検出されている。下痢・嘔吐の胃腸炎が増加。低年齢児からはアデノウイルスが数名検出された。手足口病、アデノウイルス咽頭炎はまだ多数みられる。



奈良県感染症情報

令和6年 第49週(12月2日～12月8日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

インフルエンザの流行が始まっています

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(令和6年11月)
- 11月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	インフルエンザ	8.21	(2.72) ↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	4.47	(4.39) →	↑	→	→
3	新型コロナウイルス感染症	2.30	(1.89) ↑	↑	→	→
4	A群溶連菌咽頭炎	1.34	(1.45) →	→	→	→
5	手足口病	1.31	(1.70) ↓	↓	↓	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 ※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**やや増加、**↓**横ばい、**↓↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況◆

第49週のインフルエンザの定点当たり報告数は8.21で前週の2.72より増加しています。奈良県全域で過去5週間平均数と比べて急増しており、特に中和保健所管内西部地域は16.60と注意報レベルの基準値「10」を超過しています。今後のさらなる感染拡大が予想されますので、手洗いや咳エチケット等の感染予防対策をお願いします。インフルエンザワクチンは、発症をある程度抑える効果や、重症化を予防する効果があります。定期接種対象の方や、幼児や妊婦等の重症化リスクの高い方は、早めにかかりつけ医にご相談ください。必要性や副反応について十分理解した上で接種をご検討ください。

◆病原体(ウイルス)検出情報(令和6年11月)◆

* ウイルス分離回定日での集計結果

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
RS	5	3			RSウイルス感染症(7) RSウイルス感染症/ ヒトメタニューモウイルス感染症(1)※
コクサッキーA群	10型	1	1		手足口病(2)
コクサッキーA群	16型	2			手足口病(2)
ヒトメタニューモ	13	4			ヒトメタニューモウイルス感染症(16) RSウイルス感染症/ ヒトメタニューモウイルス感染症(1)※
バルボ	B19	1			伝染性紅斑(1)
インフルエンザ	AH1pdm	1			インフルエンザ(1)
エンテロ	71型	1			手足口病/無菌性髄膜炎(1)

※重複感染



奈良県感染症情報

令和6年 第50週(12月9日～12月15日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

インフルエンザが注意報発令!

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	インフルエンザ	18.52	(8.21) ↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	4.88	(4.47) →	↑	→	→
3	新型コロナウイルス感染症	2.98	(2.30) ↑	↑	↑	→
4	A群溶連菌咽頭炎	1.03	(1.34) ↓	↓	↓	→
5	手足口病	0.91	(1.31) ↓	↓	↓	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 ※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**やや増加、**↓**横ばい、**↓↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況◆

第50週のインフルエンザの定点当たり報告数は18.52で前週の8.21から増加しており、注意報レベルの基準値「10」を超過しました。奈良県全域で増加が見られ、中和保健所管内西部地域においては31.80と特に高く見られます。一部の小児科からも外来でインフルエンザが急増しているとの報告を受けており、小学を中心に学校閉鎖も増加しています。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症で、毎年冬季を中心に多数の患者が見られます。いわゆる「かぜ」に比べて全身症状が強く、特に高齢者や基礎疾患を有する方、乳幼児等では重症化するリスクが高くなります。感染予防として、入浴後や食事前のこまめな手洗いを推奨します。アルコールを含んだ消毒液で手を消毒することも効果的です。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

発熱者の割合がインフルエンザ A 型陽性となって来た。ウイルス性感染性胃腸炎が増加している。COVID-19の陽性例は無かった。
 手足口病と溶連菌感染症は減少した。マイコプラズマ感染症も減少した。

中部地区(南本内科こどもクリニック)

インフルエンザが急増。すべて A 型。発熱が主で咳嗽は少ない。
 COVID-19 陽性例はまだごくまれに見られ、インフルエンザばかりではないので検査は必要と思われる。マイコプラズマも増加、インフルとのダブル感染が1例あった。
 幼児でhMPもあり、多量のウイルス感染が混在している。
 感染性肺炎も流行、発熱、嘔吐、水様下痢でノロ様と思われるが特定に至った例はない(検査年齢制限)。RS は見られなかった。手足口病は減少した。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザ A が急増している。学校閉鎖になつていいるところも多い。
 B 型は散見されるも大きな流行になつていない。COVID-19も散見されるも散発のみ。
 下咽痛吐のウイルス性胃腸炎も急増してきた。便よりアデノウイルスが検出される例が多い。
 マイコプラズマ感染症の流行も続いている。同じ症状で肺炎球菌陽性例も多数みられている。



奈良県感染症情報

令和6年第51週(12月16日～12月22日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/~27874.htm> TEL.0744-47-3183

インフルエンザ警報発令中!

今週の概要

- ・ 年末年始に海外へ渡航される皆様へ

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	インフルエンザ	45.78	(18.52) ↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	5.15	(4.88) →	↗	→	↘
3	新型コロナウイルス感染症	3.33	(2.98) ↑	↑	↑	↘
4	A群溶連菌咽頭炎	1.27	(1.03) →	→	→	↘
5	RSウイルス感染症	0.88	(0.70) ↑	↑↑	↗	↑↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)

※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。

増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓↓**減少

◆ 県内概況 ◆

第51週のインフルエンザの定点当たり報告数は45.78で前週の18.52から大幅に増加しており、警報レベルの開始基準値「30」を超過しました。県全域で急激に増加しており、医療機関が休診となる年末年始を迎える時期に、定点当たり報告数がこれほど高値となったことは過去20年間で初となることから、より一層の感染対策が必要です。

こまめな手洗い、換気、消毒、距離、必要な場でのマスク着用など、基本的な感染症対策を徹底し、発熱や倦怠感があるなど、少しでも体調が悪い時は外出を控えましょう。帰省などで人と会ったりする機会が増えると思われませんが、高齢の方や乳幼児等、重症化リスクの高い方と会う場合は、特に注意をお願いします。

◆ 年末年始に海外へ渡航される皆様へ ◆

海外では日本にはない病気がたくさんあります。時差や気候の違いなどから様々なストレスを受け、その結果、免疫力が低下し、病気にかかりやすくなります。海外で感染症にかからないようにするために、感染に関する正しい知識と予防方法を身に付けましょう。

- ・ 生水・氷・カットフルーツの入ったものを食べるとは避けましょう。
- ・ 食事は十分に火の通った信頼できるものを食べましょう。
- ・ 蚊・ダニに刺されないように、服装に注意し、必要があれば虫よけ剤を使いましょう。
- ・ 動物は、狂犬病や鳥インフルエンザなどのウイルスをもっていることがあります。むやみに近寄ったり、触らないようにしましょう。
- ・ 咳や発熱、発疹など、なんらかの症状がある方との濃厚な接触は避けるようにしましょう。



空港や港に設置されている検疫所では、渡航者の方を対象に健康相談を行っています。帰国時に発熱、咳、発疹、下痢などの症状があったり、動物に咬まれたりなど渡航先での出来事での健康上心配なことがありましたら、検疫官までご相談ください。

厚生労働省検疫所ホームページ FORTH(For Travelers' Health)
<https://www.forth.go.jp/index.html>

次回週報(第52週・第1週)は2025年1月10日(金)発行予定

